

平成27年3月12日(木)

愛知県 在宅医療連携拠点推進事業 成果報告会

# 事業成果報告

～ 一宮市の取り組み ～

発表者・問い合わせ 一般社団法人 一宮市医師会

TEL 0586-71-7531

FAX 0586-72-1447

## 本日の内容

1. 地域課題と介入方針
2. 介入による変化の事例
  - 一宮市地域連携アセスメントシート
  - 会議運営
3. 次年度の展開

# 1. 地域課題と介入方針

## 地域課題 | 一宮市の現状

資源の数 と 事業所努力 で支えられている

病院  
15

介護老人保健施設  
8

強化型在宅療養支援診療所  
16

特別養護老人ホーム  
12

在宅療養支援診療所  
25

居宅介護支援事業所  
79

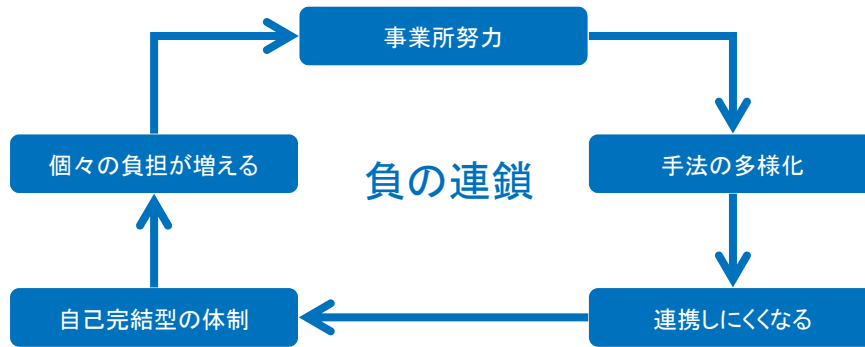
訪問看護ステーション  
29

地域包括支援センター  
7

調整機能が存在しない

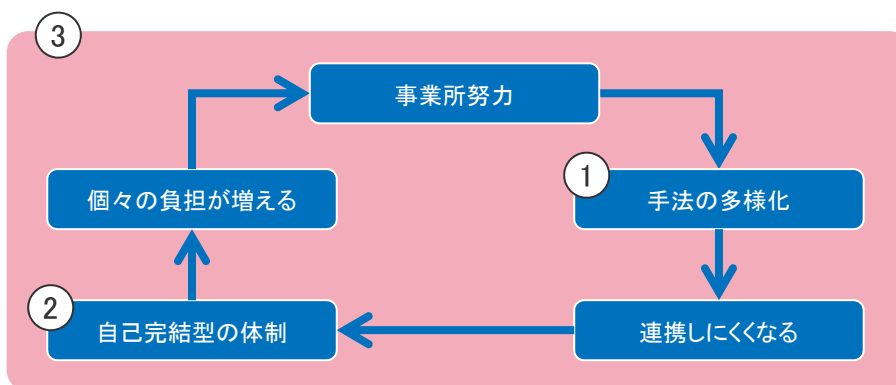
## 調整役がない弊害

事業所努力だけでは **消耗** するばかり



**調整役が介入し連鎖を断つ必要性**

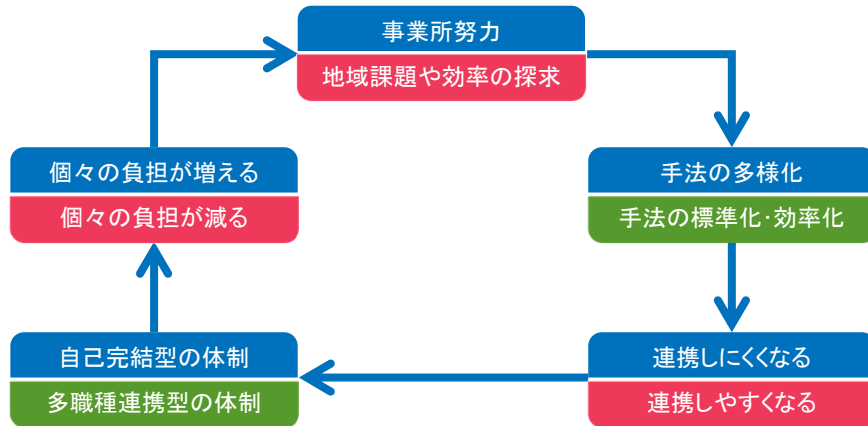
## どこに介入すべきか？



- ① 市内バラバラの手法を標準化 (情報共有)
- ② 互いの違いや立場を知る機会 (関係構築)
- ③ 介入を切れ目なく継続させる (体制整備)

## 介入の効果 | 地域ビジョン

介入により 負 → 正 へ転換



## 活動事例

### 情報共有

一宮市地域連携アセスメントシート

### 関係構築

会議運営、ワーキンググループ

### 体制整備

在宅医療・介護連携推進のための提言

## 2. 介入による変化の事例

### 事例1 | アセスメントシート

当初のねらい

入退院時や在宅療養のあらゆる場面で  
医療・介護情報を共有するツール

原案作成

拠点事業の  
医師が立案



試行運用

病院 MSW  
包括センター

## 試行運用結果 | 運用方法

方針があいまい

あらゆる場面で利用できる



いつ、誰が、どこで使う？  
利用する場面で情報が違う

## 試行運用結果 | 情報内容

情報を詰め込みすぎ

医療・介護情報を網羅



情報が多すぎて作成が大変  
専門的な知識が求められる  
既存様式と重複し二度手間

## 再検討

### アセスメントシート検討 WG

一宮ソーシャル  
ワーカー連絡会

ケアマNET一宮

各団体役員＋拠点事務局 計17名

医師を入れない → 作成者目線

## 得られた意見

### 入院時 の情報提供への不満

#### ■ ソーシャルワーカー

- 医療情報はサマリーで十分
- 普段の生活やサービスの状況を知りたい
- 入院時の情報提供様式がバラバラ

#### ■ ケアマネジャー

- 医療側に何の情報を伝えればいいのか？
- 病院によって窓口や受け取り方が違う

## 方針の変更

### 当初のねらい

入退院時や在宅療養のあらゆる場面で  
医療・介護情報を共有するツール

### 方針変更後

入院時にケアマネジャーと病院が  
生活・サービス状況を共有するツール

## 介入による変化

### ■ 手法の標準化

- 入院時の情報提供様式の共通化
- 病院窓口の一本化
- 個人情報取扱いのルール化

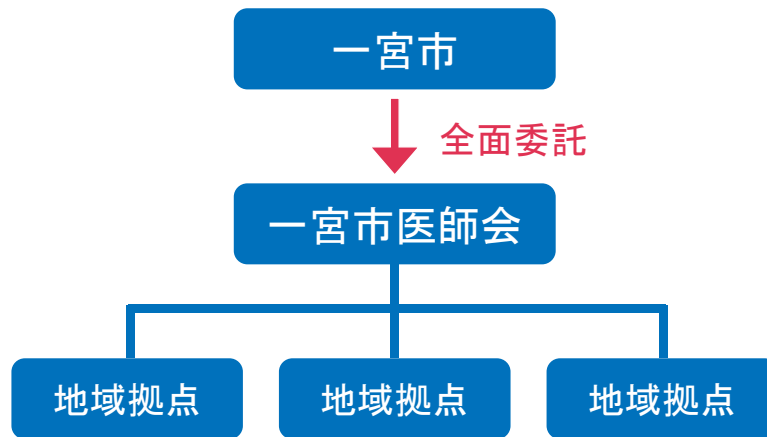
### ■ 会議を通じた多職種交流

- 互いの状況を知る機会、事業への期待感
- 新たな課題の発見  
(介護施設診断書の共通化)



## 事例2 | 会議運営

市の委託を受け **医師会と地域拠点** が実施



## 地域拠点

### 一宮在宅療養研究会

強化型在宅療養支援診療所(11か所)の連携グループ

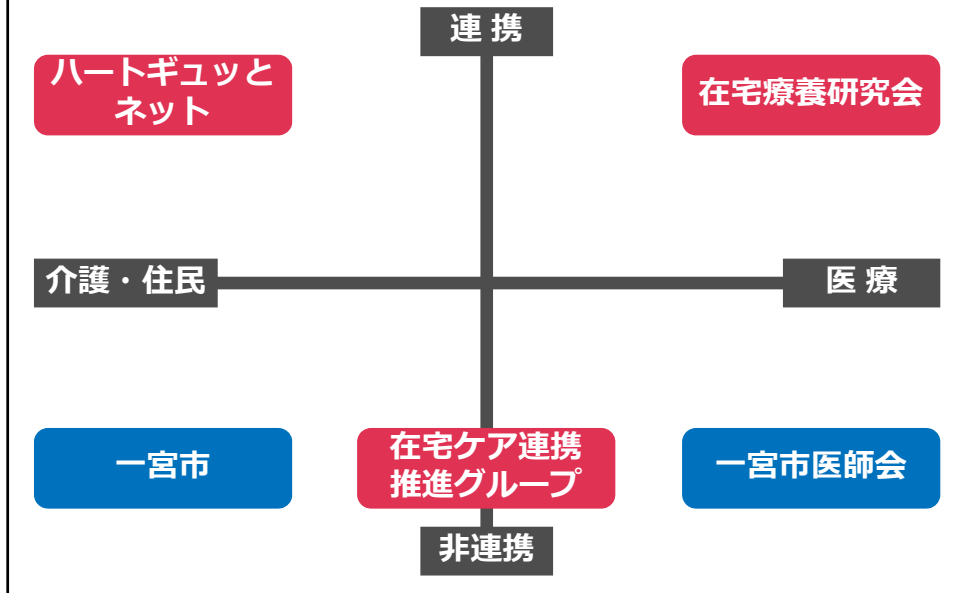
### 一宮ハート・ギュツと・ネット

厚生労働省 在宅医療連携拠点推進事業 受託事業所

### 一宮在宅ケア連携推進グループ

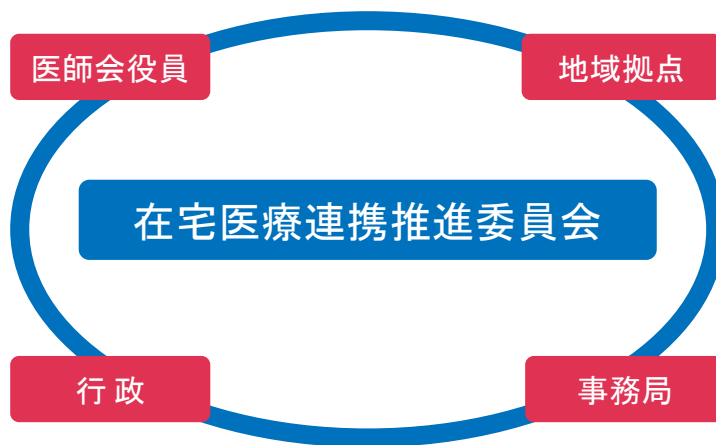
在宅療養支援病院 設置法人

## 各組織の特性



## 会議体制

毎月1回 進捗管理と検討



## 根本的な問題

当初から **見ている方向が違う**

	医師会当初計画	地域拠点
市に対する認識	市では事業遂行は困難	市に事業遂行を求めるべき
将来ビジョン	地域拠点を核とした体制 (現有資源活用)	市や地域包括を核とした体制 (新体制構築)
拠点事業の進め方	事業全項目を各拠点で実施	各拠点の特性に合わせて実施

## かみ合わない議論

議論するほど **ストレス** が増す

意見の不一致で議論が進まない



事業停滞への焦り、一方通行の議論



意見が出なくなる



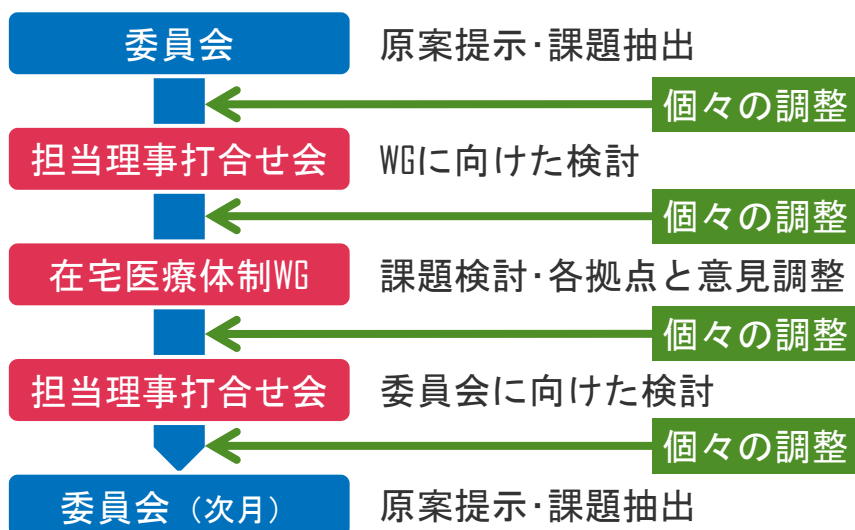
会議の外で不満が出る

## 問題の考察 | 拠点担当の役割

調整役としての機能が不十分

- ビジョンを共有してから事業を進める
- 原案作成の段階から 広く意見を聞く
- 当初計画やスケジュールに 固執しない
- 会議には出ない 本音 を拾う
- 担当理事の 発言は重い という認識

## 会議体制の見直し



## 見直しによる変化

議論するほど **次の課題** が明確になる

多くの意見を踏まえた原案提出



意見の不一致が対立に発展しない



建設的な議論が進む



次回に向けた課題が明確になる

## 関係構築の妙

### ■ 孤独感の解消

- 担当理事だけでなく委員のみなさんも相談役になる
- 情報・意見が集まってくるようになる

### ■ 地域拠点の枠を越えた取り組み

- ICTシステム運用ルール策定
- 一宮市への施策提言

### 3. 次年度の展開

## 一宮市への施策提言

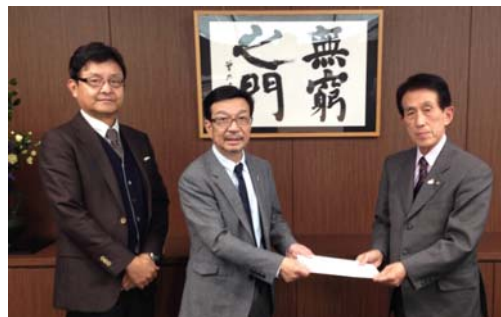
### 在宅医療・介護連携推進のための提言

在宅医療・介護連携推進のための  
一宮市への提言

平成26年12月

一般社団法人 一宮市医師会

H26.12  
医師会長から市長へ



## 提言の概要

### 1. 患者・家族を支える環境づくり

- 医療・介護の総合的な相談窓口の設置
- 在宅療養や終末期への理解を深める市民啓発の推進

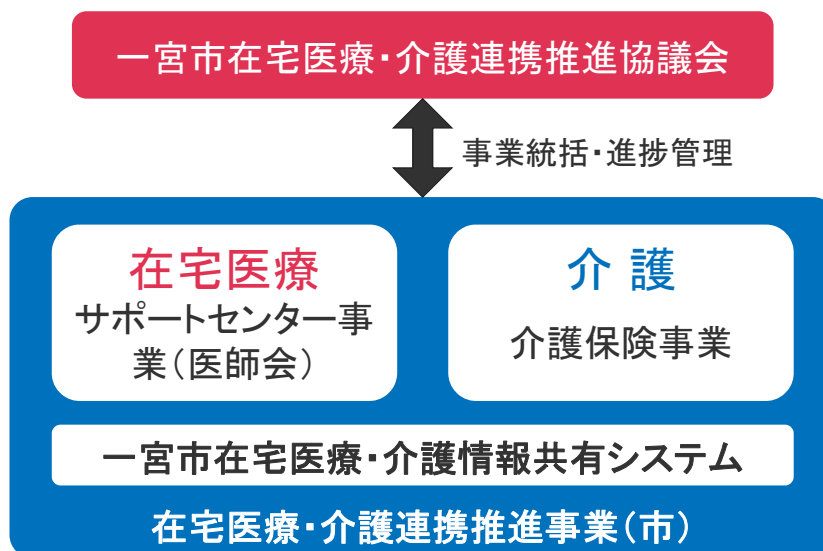
### 2. 在宅療養を支える体制づくり

- 医療・介護の多職種代表による協議会の設立
- 医療連携の更なる推進(サポートセンター事業との協調)
- 介護資源の有効活用

### 3. 施策遂行を支える組織づくり

- 地域包括ケア・医療介護連携推進のための部署の新設

## 次年度事業の全体像



## 一宮市医師会における体制(案)

- サポートセンター連絡会議  
会長以下 全理事(理事会と同時開催)
- 3つのワーキンググループ  
在宅医療・病診連携・情報共有 各WG
- 中核サポートセンター  
尾張西部医療圏における検討
- 事務局  
専従職員 1名(ケアマネジャー)

## 地域課題 | 次年度に向けて

### 市内全域でのシステムづくり

